

葉牡丹を楽しむ

葉牡丹は、パンジーとともに冬花壇の主役ともいえる代表的な花ですが、近年では品種が増え、苗物が花壇に使われるだけでなく切り花がフラワーアレンジに使われるようになり、クリスマスから正月まで様々な場面で見かけることが多くなっています。普通はお店で苗を購入して庭やプランターに植えますが、葉牡丹は種から育てることも可能です。ここでは、少し変わった葉牡丹の育て方として「切り花」と「踊り（1年物）」を紹介します。

葉牡丹を種から育てる場合、寒くなるまでに葉数を確保する必要があるため、種まきは7月中、遅くとも8月上旬までに行います。

【切り花栽培】

○品種

切り花用高性種（初夢、初紅、冬紅など）

○種まきと育苗

種まきは7月中旬に行います。

種は2号ポット、または72穴のセルトレイに市販の播種用土を用いてまきます。

1ポット（穴）当たり2粒をまき、覆土はバーミキュライトなどで種が隠れる程度にします。

苗します。

○移植及び定植

種をまいて約3週間、本葉3〜4枚の頃に苗を10〜15センチ間隔で定植します。

やや密植にすることで、草丈が伸びやすくなります。定植は日中を避け、茎が直立となるように



植え付けます。子葉を埋め込まない程度のやや深植えとし、苗が倒れないように株元の土を押さえます。根が活着するまでは、乾かさないうようにかん水します。

元肥は、即効性の肥料を窒素成分で1平方メートルあたり10グラム施します。葉色や生育が悪い場合は、9月下旬までに追肥します。10月以降は、着色を美しくするために追肥はしません。

○定植後の管理

かん水は活着までは十分に行い、活着後も畝が乾き始めたらたっぷりとかん水し、茎の伸長を促します。

草丈が30センチくらいの頃から葉の着色が始まる10月中旬までの間、茎が太くなりすぎないように、下半分の葉を手でか

き落とす作業を3回程度行います。10月下旬頃には、草丈が約70センチくらいまで生長するので、フラワーネットなどを利用して倒伏を防ぎます。フラワーネットは、草丈に合わせてこまめに上げ、茎が曲がらないようにします。

【踊り（1年物）】

通常の「踊り葉牡丹」は、秋に苗が春に開花した後、さやが膨らむ前に摘花し、6〜7月にできる新芽を生長させ、複数の枝先にできる葉牡丹を楽しむものですが、ここで紹介するのは、種まき後、年内に「踊り葉牡丹」に似た状態に仕上げる方法です。

○品種

切り花用高性種のうち、やや草丈が低いもの（初夢、初紅、冬紅など）

○種まきと育苗

種まきは7月中旬以降、切り花より5日程度遅らせまします。種は200穴セルトレイに市販の播種用土を用いてまきます。後の管理は切り花と同じです。

○移植と摘心

種をまいて約3週間、本葉2〜3枚の頃に3号ポットに移植します。移植後は地面に直接置き、根が地面に降りるようにはしておきます。本葉5〜6枚で摘心し、分枝を出やすくするためポットの間隔を広げておきます。できれば3本以上の分枝を確保しますが、気象条件や個体差もあり分枝が2本しか出ないものや6〜7本出るものもあります。矮化剤（節間が短くなる生育調節剤）を摘心20日前に適量散布することで分枝が出やすくなります。元肥・追肥は切り花に準じます。

○移植後の管理

かん水は活着までは十分に行い、活着後も畝が乾き始めたらたっぷりとかん水し、茎の伸長を促します。

切り花と同じく、茎が太くなりすぎないように下葉を3分の1程度とってやります。10月中旬くらいから着色が始まり、11月に形や色を見ながら適宜組み合わせ寄せ植えして楽しめます。